

# 新山協ニュース

△ 発行者 鈴木敏雄      △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 協会創立40周年記念事業・中国の旅 その1

### 中国火車の旅

渡辺 龍

今回の中国旅行ではよく火車（中国では汽車のことを火車。自動車を汽車という）に乗った。これほど火車に乗った旅も始めてだ。バスや飛行機の何倍も。そして合計44時間も。西から東へ、東から北へと。しかも、それがまた楽しい旅だった。

その火車に乗っての、中国東北部の旅のそもそのケチ（？）のつきはじめは、成田空港でパキスタン航空の便が3時間半も遅れて出発し、おかげで北京から瀋陽へ飛ぶ便に、半数の10人しか乗れなかったことに始まる。

一、北京→瀋陽（841 Km、12時間35分）

残された組10人は20人分の大荷物を持って北京駅へ。まあとにかく女駅長さんと直談判のあげく、漸く瀋陽行き夜の寝台券をとった。（というよりもぎとった）計算によ

ると3人ほどは寝る場所がないことになっている。しかし、そこが中国の中国らしいところか、ともかくみんなで大荷物を持って、クリーリよろしく大衆をかきわけかきわけ乗りこむ。なんとか中国人の間に割りこんでいたら、なんとなってしまった。誰もベッドのことも心配もせず飲んでいたので、そしてみんながベッドの上で寝てしまったのだから。

早速あちこちで日中友好の輪ができる。中国語なんか解る訳ないから、手まね足まねそれに筆談、なんとかなるものだ。寝たり起きたりまた飲んでいたら、12時間半。瀋陽へ着いたら、荷物が無くて動きのとれない先発（？）隊がお出迎え。駅前の食堂でやっと全員揃っての食事。実は車中組は食堂車で昼食を済ませてあ

表してもう一度。食と飲は中国に在り。よく飲み、よく食べた中国の旅はここで本格的に始まった。申しおくれたが、北京駅は今年（昭和62年）6月1日から完全禁煙に踏み切ったのだ。そうだ。どうして灰皿が無いのだらうと思しに思っ待ち合い室を見回したものだ。そう言えば中国人は誰もタバコを吸っていない。今までもどうも様子が違う。後で解ったことだが、テレビで監視され、違反者は罰金をとられるのだそう。知らぬが仏。始めての日本人と思ってお目こぼしにあずかったのだらう。

それに同室の中国青年（名は聞きもしたが西安の人らしい）には申し訳ないことをした。彼はジュースの大ビン1本、センス1本、タバコ1箱それに本1冊の軽装でやって来た。敬意を表し、酒を勧めてもマントウを勧めても遠慮をして絶対に受け取らなかつた。カンジュースとタバコ1箱を差し上げ、早々に上段にお引き取り願った。（というより彼は気を利かして自分から遠慮したのだが）実に感謝にたえない。彼はいつ見ても本を読んでいた。かくてわれわれ日本人のみ入れ代わり立ち代わり……ということになった。

二、瀋陽→通化（358 Km、9時間45分）

瀋陽での日程を終り、一行は東の方、北鮮との国境の町、通化市へ向かう。暗いうちにあわただしくホテルを出発。6時半に火車は満員の乗客を乗せて発車。中国人の人もよく旅行をするものだと思う。どの列車も硬座車（普通車）はあふれんばかりだ。われわれは軟座車（座席指定）なのでゆっくりと持ちこみのパン食の朝食をとる。鈍行とはいっても日本とは違って、5分



か7分ですぐ次の駅に着くよ  
うなものとは違う。1時間も  
それ以上も走ってやっと止ま  
る。それに食堂車もついてい  
る。

今日は天気が良いせいか、  
車窓の景色ものどかに見える。  
相変らず水田が多い。カカシ  
も立っている。子供が虫網を  
持って虫を追っている。ふと  
日本の風景を思い出す。

線路脇のトーチカは姿を消  
したが、その代わり(?)旗  
袍を着て自転車に乗っている  
女性を目にした。やはりここ  
は中国だ。しかも旗袍は北方  
満州族の衣服だったのだ。

中国の火車は車輛毎に女性  
のスタッフが乗務する。制服、  
制帽がなかなかイキで、しか  
も愛嬌があり一行の人気者と  
なる。カメラがカチャカチャ  
と音をたてる。火車は満員の  
乗客を乗せたまま国境の町へ  
とゆっくり上って行く。われ  
われを退屈にもさせないで。

夕方、火車は静かに通化に  
着いた。次の列車までの5時  
間近くをこの町の見学などで  
過ごすことになる。

看板はすべて漢語とハンゲ

ルの併記である。やはり朝鮮  
に近い朝鮮族の多い町だと思  
う。通訳の韓女史も朝鮮族だ  
そうだがとにかく日本語がう  
まくて奇麗だ。まるでせせら  
ぎの音といった感じである。

三、通化〜白河 (37.7 Km、  
8時間23分)

いよいよ国境の山、白頭山  
のふもと、二道白河の白  
河駅に向けて出発する。時に  
夜の9時2分。また鈍行。し  
かも今度は軟座車ながら座席  
の具合がどうもおかしい。滑  
り落ちそうではなはだ不安定。  
8時間も眠って過ぎなければ  
ならないのに。何度も  
体をあちこちにねじった  
りまげたり。登山前に体  
が痛くなってしまふので  
はないかと心配しながら  
うとうとする。

4時過ぎ風雨の音で目  
が覚める。外はまだ真暗  
だ。少しわびしくなる。  
一番心配していた雨だ。

薄明るくなった頃ホー  
ムに降り立つ。時々強く  
降る。結局この日は降っ  
たり止んだり。

四、二道白河〜安図 (バスの  
旅、13.5 Km)

雲海に浮かんだ白頭山頂の  
火口湖や雄大な峰々を見渡し、  
久々に朝の太陽のまぶしさを  
体いっぱいあびた一行は、満  
足感で胸をふくらませ下山の  
途についた。朝食の後、後を  
振り振り返り大樹林帯を  
突き抜け、バスに揺られた。

『長白山自然博物館』を見  
学し、道途の食堂で昼食をと  
り、一路安図の町をさしてひ  
た走る。行きかう車も少なく、  
静かな日本の山道を思わせる  
ような山間の道を、右へ曲が

り左へカーブしながらゆるや  
かに下って行く。午後の日差  
しを受けてつい眠りにさそわ  
れる。

5時、安図の町に到着。火  
車が出るまでの間、町を見学  
したり、夕食をとったりする。  
どこへ行っても建築、建設ラ  
ッシュである。

五、安図〜長春 (41.1 Km、  
8時間22分)

今度は急行寝台車だ。ほっ  
としてまた夜半まで飲みかつ  
雑談に花が咲く。火車の旅は  
ほんとうに楽しい。

未明5時に早くも長春に着  
く。森の都の暗い道を南湖ホ  
テルまでバスをとばす。ひと  
休みして南湖公園巡り。また  
雨となる。朝食の後、博物館  
見学。5時間足らずの長春滞  
在。ほんとうは1日か2日ゆ  
っくり見学したい町だった。

六、長春〜ハルビン (242  
Km、5時間)

今にも降りだしそうな空の  
下を、火車は一路この旅の最  
北の町ハルビンへと向かう。  
丘あり、水田あり、川あり、

沼あり、起伏に富む風景で目  
を楽しませてくれる。

中に親子4人連れの中国人  
家族あり。幼稚園児くらいの  
女の子がものおじもせず堂々  
と遊戯をしてくれる。歌うの  
はお父さん。またたくまにみ  
んなのアイドルになってしま  
った。いやそのもてること。

大のおとなが寄ってきては何  
やらプレゼント。日本では絶  
対に見られない光景だ。

食堂車で遅い昼食を取って  
一息つく。車内も静かになっ  
てきた。みなの旅の思い出を  
乗せて火車は終着ハルピンに  
向ってひた走る。

2時55分、火車はすべるが  
ごとく静かにホームに着いた。  
かくして火車の旅は終わった。

飛行機の旅も悪くはないが、  
火車でゆっくり眺めながら行  
くのも楽しいものだ。ほんとう  
はゆっくり歩きながら楽し  
むのが、本当の旅なのかもしれ  
ないが、ともかくのどかな  
い旅だった。また会いまし  
よう。再見、中国、再見、中  
国のみなさん。





## 第6回自然保護研修会から(報告)

自然保護副委員長 徳 長 正

第6回自然保護研修会が、昨年11月14日～15日にかけて五泉市及び同市の菅名岳で行われました。今回の研修会は、2～3年前から地元の関係者及び学識経験者から、急に菅名岳の榎林及び桂林が希少価値の有る物として、しかも自然保護上保存し、後世に残して行くに値いする自然であるとの運動が起つておる折でもあり、当協会の自然保護指導員会では目的地をこの菅名岳に当てた由です。その結果お蔭様で講師の方(新大理学部石沢助教及び県自然保護係の方々)を始めとする地元自然を守る会、地元山岳会及び関係機関の関係者から絶大なご協力を頂き総勢47名の参加者を待ました。しかも初めての方々何度か訪ねておられる方も相当おられました。今回の研修会で改めて、学術的価値を再認識して頂いたり、自然保護の大切さを実感として感じ、これからまだまだ色

しておる状況です。

話しは変わりますが、その後新大の石沢助教より、現在県内の菅名岳他榎林保護団体として当協会からもご協力頂けるかどうか、その意志表示を願いたい旨の事であり、協会としても先般の理事会に計り賛同を得ましたので、申し込み協力の意志を連絡しておきましたので、この点も会員の方々にご報告しておきます。

## 菅名岳 自然保護研究会報告

菅名山岳会 落合 武志

このたび県山協自然保護指導員の研修会を、当地菅名岳に設定して戴き有難うございました。当初咲花温泉での宿泊を予定しておりましたが、行楽のシーズンと重なり、肝心の予約を取り付ける事が出来ず御不自由をおかけ致しました。心からお詫び申し上げます。

さて、菅名岳に関しては参加された指導員の皆様には、何回か登られたかと思ひます。しかし、このたびの研

も参加者は確認されたものと思ひます。それにこの新江沢

の特徴として、沢の中にある大小の石の表面に、苔が覆っているのが観察されたと思ひます。この苔そのものも微妙なバランスの上に成育している事で、この新江沢はいかに安定した沢であるか、と言う事が理解出来ると思ひます。四季を通じて沢を流れる水量はそれ程の差がなく、ブナ林のもたらす保水能力がいかに優秀であるか、又そのブナ林の水を適宜戴いて成育している、カツラ、トチノキ、サ

## 組倉山

スキーツアー

案内

日時 昭和63年3月26日～27日

集合場所 新発田市滝谷、新発田市農村婦人の家、受付18時より。

装備 スキー用具一式(シール)、輪樫の登山も可。服装 春山日帰りとし、雨具、水筒必携。

宿泊 寝具は各自持参。会費 1000円

※26日懇親会用トン汁は用意しますが、食事は各自でご用意願ひます。日程 26日、19時より懇親会、

界にタイムスリップした感があつた様に思ひます。途中斜面的の中腹からの湧水(胸腹清水)で、林内は空中湿度が高く、それに伴う着生植物など



21時就寝。

27日、朝食後、7時出発、

釜が沢林道分岐まで車。釜

が沢林道より鳥越峠を越え

琴沢から組倉山頂上11時着

中食後12時往路下山、釜が

沢林道分岐14時着。解散。

担当 下越山岳会

申込 新発田市中央町1の1

の7

五十嵐篤雄方

0254222928

スポーツ指導者

### 研修会案内

期日 昭和63年3月20日(日)

会場 三越プラザ共同ビル

3Fホール

新潟市東大通1の1

025(241)4789

参加条件

(1)財日本体育協会公認スポ

ーツ指導者

(2)地域におけるスポーツク

ラブ等で指導にあたって

いる者

(3)これから指導にあたらう

とする者

経費 参加費1000円

申込 氏名、年令、登録番号。

現住所を協会事務局まで連絡。協会で一括申込をする。

3月10日(木)

資料は申込者本人に送付する。

加盟団体各位

新潟県スポーツ

振興基金の

寄付について

寄付について

県体育協会では、昭和60年

から県民のスポーツ振興を

図るため、5年間で5億5千万

円の大目標を掲げ募金活動を

展開しております。

つきましては、本県の競技

力向上の大事業の趣旨を御理

解いただき、1口(5000

円)以上の募金を山岳協会加

盟会員よりお願いいたします。

協会事務局で取りまとめを

しまして、体育協会宛振込み

いたします。

ソウル

オリンピック

視察員の募集

1.企画 財日本体育協会

2.派遣期日 昭和63年9月17

日(日)~10月2日(日)

の期間中の15コース

3.経費 派遣に関する経費は

全額参加者負担とする。

旅行費用(3泊4日 基本

日程)

・東京 発着

148,000円

・大阪 発着

135,000円

(3泊単位の延泊料金

30,000円)

4.参加資格

(1)本会公認スポーツ指導者

(スポーツ指導員、コー

チ、上級コーチ、スポー

ツトレーナー)

(2)日本スポーツ少年団登録

指導者

(3)本会公認スポーツドクタ

1

(4)本会加盟団体役員

(5)その他、本会が認める者

5.参加申込方法

詳細は協会事務局まで問

い合わせ下さい。

6.第2次〆切 昭和63年6月

30日(木)

※第1次(2月29日)の競技

会場入場券は比較的希望对

応できるが、第2次につい

### 事務所変更

弥彦山岳会

〒959103

西蒲原郡弥彦村弥彦

宿屋昭二様方

### 連絡

協会銀行口座の変更

第四銀行長岡駅東支店

普通1116600

理由 銀行の統合

### あとがき

山を思う仲間の声に押され、毎月ニュースが発行でき担当一同喜んでおります。

協会年間行事の全てが載っている訳ではないので、今後は漏れなく掲載し各号の頁数を増したいと思えます。皆様からの身近な便りをお願いします。

山岳保険の更新時期になりました。空白期間の無いようご注意ください。

教習種目 大型・普通(第1種)大特 自二輪・身障者用各種自動車

## 中条自動車学校

北蒲原郡中条町大字高野字茨島  
中条(0254)44-8071  
社長 高野 愛子

読書は万能の基

新潟市営所通1-301

## 学生書房

電話 025-222-9870番